



特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会  
2008年度 事業計画

## ■はじめに ～2008年度事業計画のポイント～

2008年度は、特定非営利活動促進法(NPO法)施行10年にあたる。各方面から市民活動やボランティアについて、あらためてその価値や役割についての検証や再評価などの動きが出てくることが予想される。また、2007年に実施したいくつかの会員アンケート調査からは、現場のコーディネーターたちからボランティア概念の拡大解釈をめぐっての危惧や不安が寄せられた。このような社会的状況の中で、JVCAとしてはミッションであるボランティアコーディネーターの専門性と社会的認知の向上に関する具体的な事業を立ち上げ、社会に広く発信していくための重要な年になる。4月には大幅な役員体制の変更も控えており、JVCAとしてのミッションの確認と今後のビジョンを共有するための組織内コミュニケーションの強化も不可欠になってくる。

これまで本協会では2006～2008年度の3カ年にわたる「中期ビジョン」に基づく取り組みとして下記の3点を挙げ、活動を進めてきた。

- ①ボランティアコーディネーターの専門性認定の仕組みづくりに着手し、2008年度中に完成させる。
- ②あらゆる組織・場面におけるボランティアコーディネーションの質の向上に向けた事業を新たに実施する。
- ③基本指針を軸としたボランティアコーディネーションについての理解促進キャンペーンを実施する。

本年度は中期ビジョンに基づく取り組みの3年目にあたり、この計画に沿って事業展開をはかる。具体的には、2007年度にボランティアコーディネーター専門性研究委員会において、ボランティアコーディネーターの社会的認知や専門職としての確立のための「専門性認定のためのしくみづくり」に関して検討し、これによって提案された2つのシステム「ボランティアコーディネーション力検定(仮称)」と「JVCA認定ボランティアコーディネーター」の発足に向けた準備に重点をおく。

さらに、2006年度に作成したブックレット「ボランティアコーディネーター基本指針」を活用してボランティアコーディネーションについての理解促進キャンペーンなどを展開しながら“ボランティアコーディネーションの理解と普及”を図っていきたい。

これらの状況をふまえ、2008年度はJVCAが事業の柱としている4つの重点とそれを支える推進体制づくりの課題に沿って、以下の取り組みを中心に事業展開および組織運営を進めていくこととする。また、2008年度で中期ビジョンの期間が終了することに伴い、この3年間の事業の実績ならびに評価を行うとともに、中期ビジョンに基づいて提案された具体的な事業を形にするためのさらなる検討と次期ビジョンづくりのための体制整備に取り組む。

## 1. 多様な領域で活動するボランティアコーディネーターのネットワークの確立

---

### ①ホームページを活用したボランティアならびにボランティアコーディネーションに関する提言とアドボカシーの推進

⇒ホームページのコンテンツおよびデザインを刷新し、WEB媒体を活用したPRや提言活動を通じてボランティアコーディネーター間の意見交換をすすめる。

### ②CoCoサロンによる顔の見える会員ネットワークの強化

⇒多様に展開されるCoCoサロンの世話人同士が情報交流できる場を設け、サロン活動の今後の展開や活動充実のための検討をすすめる。

### ③ボランティアコーディネーションに役立つグッズやツールの紹介、開発

⇒コーディネーションに役立つグッズやツールに関する情報交換の場をWEB上に設け、相互の活用や開発について呼びかける。

## 2. ボランティアコーディネーターの専門性の向上にむけた取り組み

---

### ①「ボランティアコーディネーション力検定(仮称)」システムの開発

⇒現在ボランティアコーディネーターとしての任にある人のみならず、社会のあらゆる場面にボランティアコーディネーションの意義や機能を幅広く浸透させるために本システムを創設する。検定は「レベル1」から「レベル2」「レベル3」といった段階を設定し、ボランティアコーディネーションの価値、知識、技術に関する理解力や実践力が研修によって向上し、検定によって確認できるカリキュラムを構想している。2008年度は「レベル1」のテキスト、研修プログラム、試験問題を作成し、研修と検定のトライアル(試行)を行うことにより2009年度の第1回レベル1検定実施にむけて準備をする。

## 3. ボランティアコーディネーターの専門職としての社会的認知度を高めるための取り組み

---

### ①「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムの開発

⇒職業としてボランティアコーディネーターの実践を行っている人材に対して、研修、実践レポート、演習などを組み合わせたプログラムによってその実践力の向上をはかり、その力を確認し、協会としての認定を行う「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムを創設する。2008年度は「ボランティアコーディネーション力検定」のレベル1～3の制度構築と歩調を合わせて、2010年度から認定を開始できるよう研究、準備を行う。

## 4. ボランティアコーディネーションの普及

---

### ①「ボランティアコーディネーター基本指針」を活用した普及啓発の促進

⇒ブックレットをCoCoサロンや読書会、研修会で積極的に活用することを通して、ボランティアやボランティアコーディネーションについての理解をはかる。

### ②ホームページのコンテンツの再構築と内容の充実

⇒一般にむけて、ボランティアコーディネーションの理解を向上するためページをつくり、内容を充実する。

## 5. 事業推進体制の充実

---

上記の4つの柱となる事業を実施するために事務局体制を充実し、財源確保に努める。

### ①事務局スタッフの増強

⇒これまでの事務局のアルバイトスタッフに加えて、新規事業実施に関するサポートスタッフの増強を図る。

### ②事務局担当理事の選任

⇒担当理事をおくことによって、事務局運営のサポート、職員の雇用管理のチェックを行う。

### ③組織を継続的、安定的に運営していくための財源の開発

⇒ミッションに沿った趣旨の委託事業の受託や、調査研究および開発的な研修実施などに対して助成金を申請する。

## ■ 1 事業の推進

### (1) 全国ボランティアコーディネーター研究集会の開催

- ①「全国ボランティアコーディネーター研究集会 2008」(京都開催)の開催および評価
- ②「全国ボランティアコーディネーター研究集会 2009」(関東開催予定)の企画・準備

### (2) 研修の開催および研修企画の支援

- ① 各種研修セミナーの開催
  - ・基礎(入門)研修 5回(関東地区2回、関西地区2回、中京地区1回)  
うち1回は分科会を増やし、拡大版として計画する。
  - ・基礎(各論)研修 2回(関東、関西)
  - ・ボランティアコーディネーターのためのファシリテーション講座 2回
- ② 講座等の企画支援と講師等の派遣・紹介
  - ・地域活動等の場面でのボランティアコーディネーションの担い手にむけた研修メニューを開発する。

### (3) 調査・研究活動の推進

- ①「ボランティアコーディネーション力検定(仮称)」システムの研究  
「レベル1」のテキスト、研修プログラム、試験問題を作成し、研修と検定のトライアル(試行)を行うことにより2009年度の第1回レベル1検定実施にむけて準備をする。
- ②「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システムの研究  
2010年度の本格実施にむけて研究、準備を行う。
- ③上記2つを実施するための「検定・認定システム化検討委員会」の設置
- ④『ボランティアコーディネーター白書(2007～2009)』の編集(2月発行予定)

### (4) 情報の収集及び提供活動の推進

- ① メールマガジン(会員向け)の発行(月1回)
- ② JVCAリーフレットの改訂
- ③ ホームページの充実
  - ・トップページのデザインとコンテンツの変更を行う
- ④ ボランティアコーディネーションに関する情報収集
  - ・データベースのホームページ上での公開
  - ・資料及び文献の収集、整理
- ⑤ 雑誌・新聞などへの寄稿 など

## (5) 広報誌および出版物の発行

### ① ニュースレターの発行

『Co★Co★Net』の発行 年3回(発行月:4月、8月、12月)

### ② ブックレットの発行

ブックレット③「ボランティアコーディネーション事例集(仮)」の発行

## (6) 相談への対応

- ・会員メーリングリストによる会員相互の相談助言活動を促進する。
- ・頻度の高い問合せについて、ホームページに掲載する。

## (7) ネットワーク推進事業

### ① CoCoサロン

会員サービスの一環として CoCo サロン開催を支援し、会員相互の交流を深める。

- ・「ボランティアコーディネーターをつなぐCoCoサロンの作り方説明会」の開催 (JVCC2008の会場にて)
- ・各地の CoCo サロンの交流と情報交換を目的にした「CoCo サロン世話人ミーティング(仮)」の実施

### ② インターナショナルボランティアネットワークセミナー2008(日本開催)の企画調整

2008年5月13日～17日に日本において開催されるインターナショナルボランティアネットワークセミナー2008に企画協力し、開催を支援する。

### ③ メーリングリストの運用

### ④ 国内外の関係団体との連携

## (8) アドボカシー活動の展開

### ① ボランティアコーディネーションの普及啓発

研修や講師派遣などで「ボランティアコーディネーター基本指針」を活用して、その普及啓発を行う。また、「基本指針」をテーマにした会員ミーティングなどの開催も視野に入れる。

### ② 社会情勢に応じたアドボカシー活動を展開する。

介護支援ボランティア制度の実施の動向を把握し、必要に応じて課題提起などを行う。

## (9) ボランティアコーディネーターの実践を助けるツールの開発と活用

### ① リコグニションカードの活用

### ② ボランティアセンター自己診断の活用

### ③ グッズアンドツールプロジェクト(GTP)ブログの運営

ボランティアコーディネーターの仕事を助ける道具の紹介を行う

### ④ 新たなツールづくりの検討

## ■ 2 組織運営と財政強化

(1) 通常総会 2008年3月2日、京都にて開催する。

(2) 理事会 4回開催(2月、4月、7月、12月の予定)

役員改選期にあたり、役員を選任し、4月の理事会において正副代表理事の互選を行う。また、大幅な役員体制の変更に伴い、あらためて理事の役割を明確化し、担当制の導入を検討する。中期ビジョンの最終年に際し、これまでの3年間の事業評価を行い、将来的なビジョンづくりに着手する。

### (3) 委員会

①運営委員会 月1回、12回開催する。

開催予定地：福岡1回、関西4回、関東4回、名古屋1回、合宿2回

②各種委員会の再編と運営

各種事業の進行管理を徹底し、事業推進と組織運営への会員参加を進めるため、理事、運営委員、一般会員の参加で以下の委員会を推進する。

i) 広報普及委員会 (会員新規拡大、ホームページ充実、ボランティアコーディネーター基本指針の普及など、JVCAのPR活動全般)

ii) 会員サービス委員会(会員継続支援、CoCoサロン開催支援、Co☆Co☆Net編集など、団体内部に向けた広報・支援)

iii) 研修開発委員会 (当面は専門委員会との協働)

iv) JVCC企画委員会 (全国ボランティアコーディネーター研究集会2009の企画、今後のあり方検討)

v) 財政委員会 (中期的な財政シミュレーションと具体的な財源強化対策)

③専門委員会の設置、運営

「ボランティアコーディネーション力検定(仮称)」および「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システム創設のための検討委員会を設置する。

i) 検定・認定システム化検討委員会(仮称)

④プロジェクトチームの運営

各種委員会の他に、必要に応じて各種プロジェクトチームを構成し、事業の進行を図る。

i) 研修実施プロジェクトチーム

ii) グッズ&ツール・プロジェクトチーム

iii) 認定NPO法人制度研究チーム(仮称)

### (4) 会員拡大および会員サービスの充実

① 会員拡大に関する取り組み

多様な分野においてボランティアコーディネーターの社会的認知を広げ、JVCAの事業

や運営への参加を拡大し、会員組織としての組織構成を強化する。

2009 年度末までに会員総数を 500 人(うち正会員 400 人)まで増やしていくことを目標にする。

## ②会員サービスの見直しとサービスの充実

会員のニーズを的確に把握し、会員が JVCA にコミットする機会拡大と JVCA をより身近な存在として感じられるサービスとして、CoCoサロンを主軸とした地域や分野における会員相互の意見・情報交換とボランティアコーディネーションの普及・啓発の場づくりを拡充する。

## (5) 事務局運営の充実

### ①事務局スタッフの増員

新規事業が増えるため、事業推進のサポートスタッフを増強する

### ②事務局会議の開催(月1回)

### ③事務局担当理事の選任

## (6) 財源の確保と財政運営

### ①会費収入の拡大

会員特典(JVCC・研修・セミナー参加費割引など)を積極的に周知し、会員の勧誘を図る。

### ②事業収益の拡大

### ③その他財源の拡大(助成金、委託事業など)